

旺文社

標準
國語辭典

吉田精一監修

—— 新版 ——

莊文桂

原編

國語辭典

第貳冊——國語

附屬

旺文社

標準
國語辭典

吉田精一監修

—— 新版 ——

旺文社編

(K.9)

雜誌 小 5 時代 中 4 時代 中 3 時代 中 2 時代 高 1 時代 高 時 代	書籍 小学生向学習参考書 中学生向学習参考書 高校生向学習参考書 辞典・教科書・語学書 文庫・児童書・スポーツ書 美術書・学習図鑑	事典 教科別学習大事典 学習芸白科事典 事典 事典 事典	教科材 小学 中学 大学	放送 模擬試験・実力テスト 進学 文学
---	---	---	-----------------------	------------------------------

旺文社インターナショナル(国際誌の刊行)
財団法人 日本英語教育協会(通信教育・雑誌・放送)
財団法人 日本LL教育センター(LL教室)
日本学生会館(学生のホテル)

『旺文社案内』または『国書案内』(小・中・高・一般別)進呈 平162 東京都新宿区横須町 旺文社

乱丁・落丁はお取りかえますので本社に直接お申し出ください。

編者	旺文社
發行	立澤節朗
組版	株式會社 歐文製版
製版	株式會社 近藤写真製版所
印刷	開成印刷株式會社
製本	株式會社 市川製本所
製函	清水印刷紙工株式會社

発行所 株式会社 旺文社
162 東京都新宿区横寺町
電話 (編集) 03-266-6356
(販売) 03-266-6416

6581	722-15	0724	E
------	--------	------	---

©旺文社 1979

(許可なしに転載、複製することを禁じます)

Printed in Japan

能率見出し（実用新案登録490575、515397、515398）

新能率見出し (実用新案出願番号105851、105852、105853)

《文の組み立て》

文の基本的な組み立て方には四つの型がある。文節は文を組み立てる単位で、その役割としては、主語・述語・修飾語・接続語・独立語・並立語・補助語がある。

文の基本的な型

- 何が（だれが） どうする
- 何が（だれが） どんなだ
- 何が（だれが） なんだ
- 何が ある

主語と述語

右の文で「何が」にあたる文節を主語といい、「どうする、どんなだ、なんだ、ある」にあたる文節を述語という。

- 雨が主語降る。述語

- ぼくは主語中学生だ。述語

- 空が主語青い。述語
- 家が主語ある。述語

修飾語

主語や述語の内容をくわしく説明する文節を修飾語という。

- 強い風が急に吹く
- 激しい雨の中を帰った

接続語

文節と文節、文と文をつなぐ文節を接続語という。

独立語

ほかの文節と直接結びつかない文節を独立語という。

- わあ、うれしい。 ● はい、すぐ行きます。
- もしもし、山下さんですか。

並立語

二つ以上が並んで、同じ立場にある文節を並立語という。

補助語

ほかの文節について意味をおぎなう文節を補助語という。

- きみもぼくも中学生だ。
- ぼくたちは歌ったり、遊んだりした。
- わがはいは、ねこである。
- 空が明るくなった。

《品詞の分類表(十品詞)》

単語を働きや使い方によって分けた、
それぞれの種類を品詞という。

分類の基準	自立語か 付属語か	活用があるか ないか	文の成分は何か	その他の基準	品 詞 名
←	←	←	←	←	←
単語	付属語 自立語	ない ある	ない ある 独立語になる 接続語になる 修飾語になる 主語になる (体言) 述語になる (用言)	終止形 ウ段の音 で終わる 「い」で 終わる 「だ」で 終わる	助動詞(は・もに・こそ) 助動詞(れる・ます・ようだ) 感動詞(おや・はい・ねえ) 接続詞(しかし・そして・さて) 連体詞(この・その・ほんの) 副詞(ゆつくり・たぶん) 名詞(石・木・勉強) 形容動詞(静かだ・きれいだ) 形容詞(美しい・暑い・白い) 動詞(歩く・見る・来る)

五十音索引

(数字はページを示す)

ん 902	わ 894	ら 864	や 830	ま 774	は 644	な 605	た 486	さ 302	か 118	あ 11
＊	ゐ 902	り 869	＊	み 788	ひ 682	に 620	ち 521	し 332	き 178	い 38
＊	＊	る 881	ゆ 840	む 802	ふ 709	ぬ 629	つ 540	す 421	く 218	う 68
＊	ゑ 902	れ 883	＊	め 810	へ 741	ね 631	て 554	せ 439	け 236	え 82
＊	を 902	ろ 889	よ 851	も 818	ほ 752	の 637	と 574	そ 468	こ 258	お 93

付録目次

(一)(二)(三)	(四)(五)(六)(七)	(八)(九)(十)(十一)(十二)(十三)(十四)	(十五)(十六)(十七)
漢字画引き索引……………	九六六	国語の書き表し方……………	九〇四
故事・ことわざ索引……………	九七八	敬語の使い方……………	九一四
和歌・俳句索引……………	九七八	国文法の解説……………	九一八
和歌の部……………	九七三	国語のアクセント……………	九三六
狂歌の部……………	九七三	手紙の書き方……………	九四二
川柳の部……………	九七五	作文の書き方……………	九四六
俳句の部……………	九七五	文学史年表……………	九五八
俳句の部……………	九七五	文字のなりたち……………	九六〇
俳句の部……………	九七五	名数表……………	九六二
俳句の部……………	九七五	漢字の筆順……………	九六四
俳句の部……………	九七五	むずかしい読みの熟語……………	九六六
俳句の部……………	九七五	漢字部首の名まえ……………	九六六
俳句の部……………	九七五	方位・時刻表、月齢表……………	九六七
俳句の部……………	九七五	月の異名、千支順位表……………	九六七
俳句の部……………	九七五	古典の学び方……………	九六七
俳句の部……………	九七五	旧国名と現在の都道府県名……………	九七〇
俳句の部……………	九七五	小学校学年配当漢字一覧……………	九七二
俳句の部……………	九七五	和歌・俳句の解説……………	九七三
俳句の部……………	九七五	和歌の部……………	九七三
俳句の部……………	九七五	狂歌の部……………	九七三
俳句の部……………	九七五	和歌・俳句索引……………	九七八
俳句の部……………	九七五	故事・ことわざ索引……………	九七八
俳句の部……………	九七五	漢字画引き索引……………	九六六

監修者のことば

ことばは私たちの生活に欠くことのできないものです。ことばによって人々は意志を通じ合えるというだけではありません。人間は考えることができ、考えるということにことばは大きな役割を果たしています。一つの国の文化が栄え、生活が豊かになるのも、その国の人々が、ものごとを深く考える力を備えているからであり、そこには必ずことばの力が働いています。また、ことばは人がらをあらわします。教養のある人ほどことばが美しく、使い方が正確です。私たちはことばの学習を通して、正しく豊かな国語力を身につけることがたいせつです。

正しく豊かな国語力を養うには、ことばの指針となる国語辞典をいつも利用するのが最も確実な方法です。ただ、学生は学ばべきことが多く、単にことばを集めて意味を示してあるというだけの辞典では、決してみなさんに適した辞典とはいえません。学習というみなさんの立場をじゅうぶんに考えたものでなければなりません。そのような考えから、一九六五年、中学初級から使いやすい学習国語辞典として「旺文社標準国語辞典」をはじめて世に出しました。この辞典は幸いにして中学生諸君をはじめ高校生、一般家庭の人々にもたいへん好評を得てきました。その後、一九七一年に全面改訂を行い、また一九七三年には、内閣告示となった「送り仮名の付け方」等を採用して再度の改訂を行いました。さらに今回の改訂では、初版からの根本方針である「中学生からの学習に直接役だつ国語辞典」として本書をいっそう完全なものにするため、従来の特長をさらに徹底させ、全体にわたって修正を行いました。特に「学習」欄を拡充、故事・成句や新語・時事語もいっそう充実させるなど、新しい教育に対応し、国語学習のすべての面にじゅうぶん役だつようにしました。また、新たに実施される「常用漢字表」案を全面的に採り入れ、最新の内容をもった国語辞典といたしました。みなさんが常にこの辞典を手もとにおいて愛用してくだされば、必ずや豊かな国語力が身につくことと信じます。

一九七九年 初秋

吉田精一

刊行にあたり

人間はことばによってお互いの意志を伝え合い、複雑ななかに秩序をもった社会生活を営んでいます。ことばとそれを表す文字によって人々は文化をきずきあげ、伝承してきました。私たちの日常に、ことばや文字のない生活は考えられませんが。そのたいせつなことがや文字を学ぶ国語の学習は、すべての学科の土台ともなるものです。将来に向かって大きく伸びようとするみなさんは、ぜひ国語力をじゅうぶんに身につけていただきたいと思います。

「旺文社標準国語辞典」は、みなさんの国語の能力を正しく効果的に伸ばすことを目標につくられたものです。一九六五年に初版を刊行し、その後、二度にわたる改訂で内容をいっそう充実させてきました。今回は、学習のための辞典という本書の特色をさらに徹底させて、再検討を加え、全面的に改訂しました。また、新しく実施される「常用漢字表」案を全面的にとりいれ、最も新しい内容をもった国語辞典として、次のようなかずかずのすぐれた特長をもたせました。

一、学習に日常生活にじゅうぶんでつ四万一千余語

現代の国語を中心に、人名・地名・作品名・動植物名、重要な古語・百科語、さらには和歌・俳句、新語・時事語など、学習にも日常生活にも必要じゅうぶんな四万一千余語を収録しました。

一、解説は親切で、くわしくわかりやすく、実用的な用例も豊富

語の解説は中学生にじゅうぶんに理解できるよう、わかりやすく親切にまとめられています。また実用的な用例を多くし、必要なものはもらずとりあげてあります。

一、「常用漢字表」案に示された漢字を含む一九九六字を大活字で示し、音訓・意味から筆順まで説明

常用漢字表案に示された漢字全部と、さらに日常使われることの多い漢字を合わせて一九九六字とりあげ、大活字でかかげ、その音訓・意味はもちろん筆順まで示したので、漢字辞典として漢字もじゅうぶんにしべられます。

一、現代の最も標準的な書き表し方をわかりやすく示す

見出し語の一つ一つについて、文部省の基準に従った書き表し方を示しました。これは現代かなづかい、新送り仮名の付け方、さらに新しく実施される「常用漢字表」案に従った現代の最も標準的な書き表し方です。

一、「学習」欄でことばの正しい使い方を解説

この辞典独特の「学習」の囲み記事を設け、読みが同じで漢字が違うことば（同訓異字や同音異義語）の使い分けをくわしく解説し、ことばのこまかい相違をていねいに示しました。

一、読み書き能力が正しく身につく注意・参考欄

この辞典が初めて設けた「読み方注意」「書き方注意」「使い方注意」の欄で、漢字やことばのあやまりやすい点を、そのつど注意したり、**【参考】****【文法】**欄のほか、**【故事】**欄をさらに充実させ、ことばの使い分けや学習上参考となる興味深い知識を説明してあるので、読み書き能力が身につく、ことばの知識を豊富にし、正確にします。

一、有名な和歌・俳句をもれなく本文に採録

教科書に出てくるものを中心に有名な和歌一四九首、俳句一〇九句を本文に収めて正しくわかりやすい解釈をつけました。国語の学習に役だち、よい資料となります。

一、学習に関係深い、すぐ役だつ付録とわかりやすい図版を多数掲載

国語の学習や、読んだり、書いたりする上に直接役だつ二十項目八八ページにわたることがらをわかりやすくまとめ付録にかかげました。また、分類図や部分の名前の図など一目でわかる図版を約六〇〇枚入れました。

このように、この辞典はみなさんの学習に直接役だついろいろの特色をもちこみました。これらの内容をじゅうぶん活用して思うぞんぶん勉強してください。おわりに、この辞典を刊行するにあたって旧版にひき続き監修の労をおとりいただいた古田精一博士をはじめ、執筆校正に特にご協力をいただいた次の先生方にあつくお礼を申し上げます。

伊藤栄洪、浦辺満明、川嶋 優、佐藤亮一、真田信治、沢木幹栄、白沢宏枝、名取賢一、日比野仁佐雄、桎 繁、松井一夫（敬称略、五十音順）

なお、巻末付録「国語のアクセント」をご執筆たまわった平山輝男先生に深く感謝いたします。

旺文社社長

末尾好夫

この辞典のきまりと使い方

〔一〕 見出し語の示し方

- 1 ひらがなやかたかなの太字で示したものを「見出し語」といいます。見出し語は、現代かなづかいによりました。ただし、古語（むかし使われたことばで、現在では古文にしか出てこないことば）と和歌・俳句などは歴史的かなづかい（「あわれ」を「あはれ」、「おさない」を「をさない」などと表す類）でかけました。
- 2 外国の地名・人名、また、外英語（外国からきたことば）はかなで示し、そのほかのことばはひらがなで示しました。
- 3 活用語は、言い切りの形（終止形）で出し、語幹と語尾との区別のできるものは、その切れ目を「・」で示しました。そのほか一部の接尾語には、ことばの形が変わらない部分との間に「・」を入れました。ただし、「別の人にあたつてみよう」の「あたつて」は、このままの形では出ていません。こういうことばは言い切りの形「あたる」で出ていますから、引くときはじゅうぶん注意してください。

あじわう【味わう】（動五）

あまい【甘い】（形）

めく（接尾）

- 4 接頭語にはその下に「・」を、接尾語にはその上に「・」をつけて示しました。また、外来語で二つの単語から成り立っていること

ばも「・」をつけて示してあります。

あい【相】（接頭）

さ（接尾）

ノック・アウト【knock out】

- 5 見出し語に、ほかのことばがついてできたことわざ、慣用句などは、ふつうの見出し語の説明のあとに次のように示しました。

かた【肩】（名）

―でいき（息）をする 苦しうに肩を上下に動かして息をする。―でかぜ（風）をき（切）る いばつてゐるようす。

- 6 和歌・俳句は、第一句目をひらがなで見出しとしました。

あをによし あをによし 《和歌》《あをによし 奈良の都は 咲く

花の 薫るがごとく 今盛りなり

〔二〕 見出し語のならべ方

- 1 見出し語は五十音順（あいうえお順）にならんでいます。五十音順というのは、最初に「あ」で始まることばがならび、次に「い」で始まることば、「う」で始まることば、……最後に「わ」「ゑ」「を」で始まることばがならびます。

同じかなで始まることばの順序は、二番目のかなが五十音順、二番目が同じときは三番目のかなが五十音順、というふうにすべて五

十音順ならんでいます。

あかじ【赤字】
あかしお【赤朝】
あかつき【晝】
あからがお【赤ら顔】
あからさま

2 五十音順で順序が決まらないものは、次の約束によりました。

(ア) 清音・濁音・半濁音の順にする。

はす【蓮】
はす【蓮】
はす【蓮】

バス【バス】
バス【バス】
バス【バス】

パス【pass】
パス【pass】
パス【pass】

(イ) 「てつき」「めつき」などの促音は「っ」は「つ」の前に置く。

てつき【鉄器】
てつき【鉄器】
てつき【鉄器】

(ロ) 「かしや」「しやう」などの拗音は「や・ゆ・よ」は「や・ゆ・よ」の前に置く。

かしや【貨車】
かしや【貨車】
かしや【貨車】

かしや【貨車】
かしや【貨車】
かしや【貨車】

(エ) 長音符「ー」は、その場合の発音がア・イ・ウ・エ・オのいずれであるかをみて、それぞれの音を表すかと同じものとす。

スカート は スカート の位置に置く。

ホース は ホース の位置に置く。

このようなことばを引くときは特に注意してください。

ずが【図画】
ずが【図画】
ずが【図画】

スカート【skirt】
スカート【skirt】
スカート【skirt】

ずかい【図解】
ずかい【図解】
ずかい【図解】

ほおじろ
ほおじろ
ほおじろ

ほおずき
ほおずき
ほおずき

この辞典のきまりと使い方

3 見出し語の、かなで書いた形がまったく同じ場合には、次の約束でならべました。

(ア) 漢字見出し・和語（日本固有のことば）・漢語・外来語の順。

がん【願】
がん【願】
がん【願】

がん【願】
がん【願】
がん【願】

がん【願】
がん【願】
がん【願】

がん【願】
がん【願】
がん【願】

がん【願】
がん【願】
がん【願】

(イ) 品詞により、接頭語・接尾語・名詞・代名詞・動詞・形容詞・形容動詞・連体詞・副詞・感動詞・助詞・助動詞の順にする。

【三】 見出し語の書き表し方

見出し語のうち、漢字で書き表せるものは、ことばの種類によつて【】（一）の三種類のうちどれかに入れました。

【】（一）の三種類のうちどれかに入れました。

【】（二）の中にくつより大きい文字で示したものは現代の標準的な書き表し方です。

あまど【雨戸】
あまど【雨戸】
あまど【雨戸】

あまど【雨戸】
あまど【雨戸】
あまど【雨戸】

あまど【雨戸】
あまど【雨戸】
あまど【雨戸】

あまど【雨戸】
あまど【雨戸】
あまど【雨戸】

あまど【雨戸】
あまど【雨戸】
あまど【雨戸】

あまど【雨戸】
あまど【雨戸】
あまど【雨戸】

あまど【雨戸】
あまど【雨戸】
あまど【雨戸】

あまど【雨戸】
あまど【雨戸】
あまど【雨戸】

あまど【雨戸】
あまど【雨戸】
あまど【雨戸】

あまど【雨戸】
あまど【雨戸】
あまど【雨戸】

あまど【雨戸】
あまど【雨戸】
あまど【雨戸】

あまど【雨戸】
あまど【雨戸】
あまど【雨戸】

あまど【雨戸】
あまど【雨戸】
あまど【雨戸】

あまど【雨戸】
あまど【雨戸】
あまど【雨戸】

あまど【雨戸】
あまど【雨戸】
あまど【雨戸】

あまど【雨戸】
あまど【雨戸】
あまど【雨戸】

あまど【雨戸】
あまど【雨戸】
あまど【雨戸】

あまど【雨戸】
あまど【雨戸】
あまど【雨戸】

この辞典のきまりと使い方

(イ)「」の中にふつうの大きさの漢字で示したものは、(ウ)以外の書き表し方です。この「」の中の漢字についている。ゝ以外の記号は次のことを表します。

ゝ……常用漢字表案にない漢字

あいさつ「挨拶」 おきて「掟」

……常用漢字表案にない読み方

おととい「一昨日」 たて「殺陣」

〔註〕常用漢字表案にしたがった読み方であっても、そのことばの書き表し方としては一般的でないものとめられるものは、「」に入れて示しました。

たくさん「沢山」 りっぱ「立派」

(ウ)「」の中にふつうの大きさの漢字で示したものは、人名・地名・書名・古語・和歌と俳句などです。これらの漢字が常用漢字表案以外の漢字または読みであっても「ゝ」「ゝ」のしるしはつけていません。

あくたがわりゆうのすけ「芥川龍之介」

かながわ「神奈川」

おぼす「思ふ」

あきふかき……(俳句)「秋深き 隣は何を する人ぞ」

2 外来語には「」の中にもとのつづりを示しました。また、英語以外のことばにはつづりの上に、その言語名も示しました。

ドイツ ドイツ
中国 チン

ただし、和製英語(英語をもとにして日本でつくったことば)については、つづりの上に「和製英語」と示しました。

ハイヒール (和製英語 high heels)

3 古語と和歌・俳句の見出しだけは歴史的かなづかいで出ています

が、この読みを、かたかなで現代かなづかいで示しました。また、和歌・俳句については、見出しだけでなく、「」の中の歴史的かなづかいについても現代かなづかいで読みを示しました。

いらふ(答ふ・応ふ)

ひむがしの(和歌)東の 野にかさつひの……

〔四〕 大見出し漢字について

常用漢字表案に示された漢字全部と、日常使用度の高い漢字を合わせて一九九六字を取り上げ、音を見出しとして(ただし、音がなく訓だけの漢字は訓で)掲げ、読み・筆順・意味を示しました。

あつかう【扱う】 あつかい うちわ 扱扱

がん【顔】(顔)ガン 顔 顔 顔

じん【賢】 ジン 賢 賢 賢

(ウ) 漢字の下のかたかなは音、ひらがなは訓を示します。かなの太字は常用漢字表案にあるものです。同表にないが、一般によく使われる音訓は細字で示しました。ただし、かなの太字の下の細字は、送りがなの部分を示します。

きん【金】(金)キン・コン かね・かな・こがね ノ 金 金 金

また、音または訓に傍線のあるものは、特別なものか、または用法のごく狭いものであることを示します。

けい【兄】(兄)ケイ・キョウ 兄 兄 兄

(イ) 漢字の音訓の下に、その漢字の標準的な筆順を示しました。

この筆順は文部省の「筆順指導の手引き」を参考にしております。
(ウ) 数の記号は、義務教育中に読み書きを覚える漢字、すなわち教育漢字を示しています。

〔五〕品詞と活用

1 ことばの意味の前に品詞と活用を(一)に略号で示しました。また、活用のあることばには品詞名のあとに(一)の中にある実際の活用形を示しました。(二〇ページ「略語・記号表」参照)

つくる【作る・造る】(動五) (つくろい)

2 品詞の分類、活用の種類については、現行の教科書の一般的なものに従いました。ただし、一部については、次の形式によりしました。

(ア) 名詞のうち、代名詞は(代)として区別しました。

(イ) 普通名詞のなかで、動詞のサ変および形容動詞の語幹となるものは、品詞名をあわせて記し、語尾活用の基本形を示しました。

べんきよう【勉強】(名・動スル)

もうれつ【猛烈】(名・形動タ)

(ウ) (か)の記号は、口語では見出し語に「と」がついて副詞、「た」がついて連体詞となることを表します。文語では「タリ活用」といわれるものです。

どうどう【堂堂】(名)……

(エ) 単語と単語が合わさった長いことばには品詞名はありません。とらぬたぬきのかわざんよう「捕らぬ。狸の皮算用」……

一つの見出しで二つ以上の品詞に用いられ、ことばの意味もちがうときは、(名)……(副)……のように品詞を分けました。

あまり【余り】(名)①余ったもの。残り。……(副)

①ひくへ。ははだしへ。……(接尾)「数を表すことばの下にひくへ」……

この辞典のきまりと使い方

〔六〕ことばの意味と説明

ことばの意味や説明は、特にやさしい表現を用い、理解しやすくしました。

1 一つのことばに意味が二つ以上あるときは、①②③……に分け、①②③……それぞれがさらに分けられるときは、⑦⑧⑨……に分けました。

くつする【屈する】(動サ変) (くつする) ①⑦折れ曲がる。……②折り曲げる。……③勢いを失う。……

④相手の勢い……

2 ことばの意味の前に「数」…「植」…植物などの略語をつけ、ことばの種類を示しました。(二〇ページ「略語・記号表」参照)

3 ことばの意味の理解をいっそう深め、ことばの実際の使い方を理解できるように例文をできるだけ多く入れました。

(ア)「」の例文の中の一は、見出し語にあたる部分です。

(イ)動詞・形容詞などのことばが使い方によって見出し語の形と変わったときは、一の下に「・」を入れ、その下に活用語尾を入れました。

うれる【熱れる】(動下一) (うれる) (くだものなど)みめる。熟い。す。「よく・れた柿」……

ただし、使い方によって見出し語の形とまったく変わる特別なもの(語幹と語尾の区別のないもの、助動詞など)は、見出し語にあたる部分を太字で示しました。

える【得る】(動下一) (える) ①……②……する……とができる。「そんなことはありえない」……

4 古語の例文には、できるだけ多く(一)の中にその例文の解釈を示しました。また、出典名を(一)に包んで示しました。

あいなし(形シ) (あいになし) (古語)……「世に語り」……

(七)

この辞典のきまりと使い方

伝ふること、まごとは「きにや」(本当のことは平凡でつまらないだろう)。(徒然草(とらぜんそう)……)

5 見出し語と同じ意味のことは(同意語)があるときは、説明のすぐあとに「のしるしをつけて示しました。」

がいかん【外観】(名) 外側から見たようす。見かけ。うわべ。Ⅱ外見。「Ⅰはりつぽだ」

6 意味の理解を助けるために必要な反対語・対応語を、↓をつけて示しました。

せつきよくてき【積極的】(形動タ) (せききよくてき) あることとがらを、自分から進んで……↓消極的。

7 同意語および、反対または対応する意味のことは、①②③……で分けられた説明の全部に通用するときは、全部の説明の終わったあとに(Ⅲ)にかこんで示しました。

あさ・い【浅い】(形) (あさ・い) ①底や奥までの距離が短い。「Ⅰ池」②程度が少ない。「経験が」「日が」

③色がうすい。「Ⅰ緑色」「Ⅰ深い」

8 見出し語の意味や使い方について特に注意しなければならないこととがらや参考となることとがらは、次の項目をあけて説明しました。

(ア) 読み方注意……見出し語の読み方で注意を要することとがらしようもう【消耗】(名・動スル)……読み方注意もとの読みは「しようもう」であるが、ふつう「しようもう」と読みならわされている。

(イ) 書き方注意……見出し語の書き方で注意を要することとがらぜったいぜつめい【絶体絶命】(名)……書き方注意絶

対絶命」と書き誤りやすい。

(ロ) 読み方注意……見出し語の使い方で注意を要することとがら

たんに【単に】……読み方注意あとに「だけ」「のみ」「……に」

きない」などのことが多くある。

9 【文法】……見出し語の文法に関係したこととがら

ありうる【有り得る】……【文法】下 一段活用形の「得る」の活用が変わったもの。「ありうる」の活用形は(……)

10 【学習】……見出し語に関係しているいろいろの知識

あたか【暖か・温か】(形動タ) (あたか) ①熱すぎない程度に高い、ほどよい温度。②金銭的に豊かなようす。「ふところがⅠだ」③愛情深い。なまけ深い。「Ⅰな心の持ち主」

【学習】「暖か」と「温か」の書き分け——「暖か」は日

が当たってあたかなこと、「温か」は水があたたかなことが

もとの意。転じて「暖か」は気温がほどよいこと、また、物

が日に当たってあたまることに多く使われ、「温か」は、

やわらいでいること、おだやかなこと、人の性質などという

きに使われる。

11 【故事】……中国の古典に出る故事をわかりやすくのせ、終わりに出典名を(Ⅲ)に包んで示しました。

かぎゅう【蝸牛】(名)【動】かたつむり。

——かくじよう(角上)のあらそ(争)い 狭い世界で、

ささいなことでもまぬぬ争いをすること。蝸牛の争い。

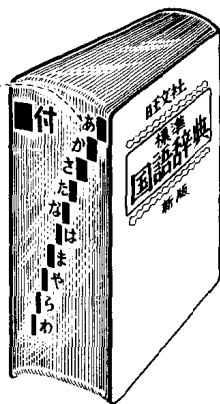
【故事】かたつむりの左角と右角の上に小さな国を持つ蝸牛と氏と蚕と氏が互いに地を取りあつて争ったという故事による。(莊子)

この辞典の引き方

この辞典は、すべてのことが五十音順(あいうえお順)になっています。いちばんはじめに「あ」のつくことばがきて、「わ」「ゑ」「を」のつくことばがいちばん終わりにきています。同じ「あ」のつくことばの中では「ああ」「あい」「あう」というように、第二目が五十音順にならんでいます。

はやい引き方

右に述べたことがわかれば、なんでも引けますが、辞典ははやく引くということがたいせつです。そのためにたいへん便利なのが「能率見出し」です。上の



能率見出し

はしらは、このページにはいつている見出し語の三文字をしめしてあります。

図(五)をのぞいて、この「能率見出し」で、いちばん上が「あいうえお」、上から二番目が「かきくけこ」、上から三番目が「さしすせそ」……、そして、上きて付録というように、引こうとするいちばん上の文字

がひとめでわかるようになっていきます。

次に、辞典を開いてみると、たとえば六六ページでは「能率見出し」は「いんがーいんせ」となっています。これは、このページは「い」のつくことばで、「いんが(印画)」から「いんせい」までの見出し語がはいっていることを表します。

和歌・俳句・故事・ことわざ索引の使い方

教科書に出てくるものや、有名な和歌・俳句は初句が本文の中に普通の見出し語といっしょにならべてあります。また、故事・ことわざも見出し語となっています。しかし、これらの和歌・俳句や故事・ことわざをまとめて見た時、調べたりする場合に付録にある索引を利用すると便利です。和歌は時代順に、俳句は詠んだ人別にあらべてありますから、自分の調べたい時代の和歌、または、調べたい人の俳句が一目でわかります。なお、読みと解釈は本文のページがしめしてありますから参照してください。

漢字の意味の調べ方

この辞典には、本文に常用漢字表案に出ている漢字全部と使用度の高い漢字五十一字がはいっていて、漢字の読み・意味・筆順が出ています。漢字には音と訓の二通りの読みがあつてこの辞典では音読みで五十音順にはいっています(ただし、音のない漢字は訓で出してあります)。したがって漢字の音読みがわかっているときは五十音順で引いてください。読みのわからないときは、付録九八六ページの漢字画引き索引を利用します。この索引はすべての漢字を画数順にならべてあります。読みがわからなくても漢字の画数をかぞえて漢字画引き索引でその画数のところを引けば、さがす漢字が見つかり、その漢字の出ている本文のページがわかります。

この辞典に使つた略語・記号

- 【】 標準的な書き表し方。常用漢字表案・現代かなづかい・送り仮名の付け方などにしたがったもの。
- 〔 〕 常用漢字表案によらない書き表し方のもの。
- ただし、常用漢字表案にしたがっていても、一般に漢字で書き表されることが少ないとみとめられるもの。
- 〔一〕 古語・固有名詞（地名・人名・書名・和歌・俳句・外来語のつづり）。
- （一） 見出し語の書き表し方を、「送り仮名の付け方」の通則1の許容にしたがったもの。
- 〔 〕 見出し語の送りがないが「送り仮名の付け方」の通則2・4・6の許容にしたがって、はぶいてよいとみとめられるもの。

品詞と活用

（名） 名詞
（代） 代名詞

- （動五） 動詞五段活用
- （動四） 文語の動詞四段活用
- （動上一） 動詞上一段活用
- （動上二） 文語の動詞上二段活用
- （動下二） 動詞下二段活用
- （動カ変） 動詞カ行変格活用
- （動サ変） 動詞サ行変格活用
- （動ナ変） 文語の動詞ナ行変格活用
- （動ラ変） 文語の動詞ラ行変格活用
- （動スル） 「する」をつけて動詞として使うもの。
- （形） 形容詞
- （形ク） 文語形容詞のク活用
- （形シク） 文語形容詞のシク活用
- （形動タ） 形容動詞。言い切りの形が「だ」となる。
- （タ） 「と」がついて副詞となり、「たる」がついて連体詞となるもの。
- （形動ナリ） 形容動詞で、文語では言い切りの形が「なり」となる。

- （連体） 連体詞
 - （副） 副詞
 - （接） 接統詞
 - （感） 感動詞
 - （助） 助詞
 - （助動） 助動詞
 - （接頭） 接頭語
 - （接尾） 接尾語
- 百科語など
- 〔文〕 国語・文学
 - 〔文法〕 国文法・文法一般
 - 〔歴〕 歴史・考古学
 - 〔経〕 経済
 - 〔法〕 法律
 - 〔数〕 数学
 - 〔物〕 物理
 - 〔化〕 化学
 - 〔天〕 天文・気象
 - 〔動〕 動物
 - 〔植〕 植物
 - 〔地〕 地理
 - 〔地質〕 地質・地球
 - 〔音〕 音楽
 - 〔美〕 美術
 - 〔仏〕 仏教

- 〔演〕 演劇
- 〔医〕 医学・保健
- 〔生〕 生理

記号

- 。 常用漢字表案にない漢字。
- 。 常用漢字表案にない読み方。
- 。 常用漢字表案にあつて常用漢字表にない漢字。
- × 当用漢字表にあつて常用漢字表案にない漢字。
- ∥ 同じ意味のことば
- ↑ 反対の意味のことば。意味が対応することば
- ↓ 他に見出しを参照する。
- ⇓ 語釈があつて、なお他の見出しを参照する。
- （ ） 同じ意味のことば、反対・対応する意味のことばが、①②③……の全部の意味に共通するもの。
- （ ） 教育漢字
- （ ） 故事・ことわざ・成句で同じ意味をもつことば。
- （ ） 故事・ことわざ・成句で反対の意味をもつことば。